

自己評価結果票

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んで いきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営			
1. 理念と共有			
1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	ISOの品質方針にて「より質の高いサービスを展開し、地域に開かれた施設運営を目指す」と掲げている。	
2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	「愛と奉仕の精神」を各フロア・事務室に掲示し、月初めに復唱している。	
3	○家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえよう取り組んでいる	2ヶ月に1回開かれる運営推進会議やその他家族交流・1泊旅行などを通じて理解が得られるものと確信している。	
2. 地域との支えあい			
4	○隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている	ホームで飼っている犬の散歩時の挨拶や出勤時の挨拶などは欠かさずに行なっている。又常に喫茶をオープンにし、いつでも寄って頂けるようにしている。	
5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	自治会の行事(グランドゴルフ・防火訓練等)に積極的に参加したり月1階の喫茶や年末の餅つきなどを通じて交流を深めている。	

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んで いきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	○事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる	自治会長より数回介護相談を受けたり高齢者家庭の方が道路で転倒していた時に必要部署への連絡を即行なっている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用				
7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び第三者評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	今やっている事への見直しにはつながるがこの評価が家族等や他の人々に役に立っているのかは疑問に思うところがあり、どれほどの人がアクセスして下さるかが、不明である。		
8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に一回開催しており、参加者も自治会長や民生委員、地域包括支援センター、医療の知識のある人、グループホームスタッフ、利用者家族とたくさんの方が参加して下さっており、意見を貰い、地域の子供の見回りや、ふれあい喫茶が実現した。		
9	○市町との連携 事業所は、市町担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	認知症の理解を得ていただく為に(市町担当者の要望により)講演を実施している。		
10	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	介護保険事業者説明会などで成年後見制度のことについて学び実際に利用者に該当するかを相談・検討している。		
11	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないよう注意を払い、防止に努めている	介護保険事業者説明会などで学び虐待とは何かをスタッフと話し合っている。又うみのほし全体会議でも高齢者虐待をテーマに研修を行っている。	○	高齢者の介護、特に認知症の方の介護において、虐待は起こりやすいと認識しており、積極的な虐待の研修の参加や、職員の虐待に対する意識の向上に取り組んでいきたい。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んで いきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4. 理念を実践するための体制				
12	○契約に関する説明と納得 契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	簡単な概要の説明をさせていただき、一読をお願いしている。その上でわからなかった点・質問事項は無かったかの確認をしている。質問には丁寧に説明をするようにしている。		
13	○運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	意見は反映できるようにしている。管理者・職員・家族等には話す機会を作るが、外部者までは、あわせる機会は、運営推進会議があるが、実際に発表するような内容は現在までない。		
14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	利用者の暮らしぶりや健康状態などは請求書と一緒に便りで月に一回必ず報告している。又その間の変化については電話連絡や面会時に報告・相談をしている。職員の紹介は各フロアに写真入の一覧を掲示している。	○	新しい職員が入ったときや異動があった時は、写真入の紹介を配布したり、年に一度は全体の一覧を配布して、顔と名前を覚えてもらえるようにしていきたい。
15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	管理者、職員が話を聞き解決の出来ている内容しかない状態で、運営には反映をしていっているが、外部者へ表せる機会というものは、現在無い。		
16	○運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員会議の報告書を確認してもらっている。又その際に説明を入れるようにしている。		
17	○柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている	定期的に話し合い必要な所へ、人員を配置できるように配慮している。都合を合わせていただけるようお願いしている。	○	どういう状況においても、柔軟な対応がとれるように、職員の減少を防ぎ、人員をより多く確保したい。

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んで いきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	仕事をしていく中での喜び、福祉の仕事の素晴らしさを時間にゆとりの出来た時は、話をするようにしている。又代わった後も利用者のダメージを配慮し注意して接しながら様子を見ている。	
5. 人材の育成と支援			
19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	年間計画を立てている。働きながら成長をしていけるように日々の指導をしている。	
20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	勉強会への参加、その際にお互いの事業所でどのような悩みがあるかという内容の話し合いをしている。また、定期的に集まる機会を検討中である。	
21	○職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる	忘年会・新年会・ボーリング大会等を行なっている。	○ ボーリングや山登り等娯楽とスポーツを通じて、ストレスの軽減と共に体力・健康・人間関係の向上を図っていきたい。又定期的に管理者が一人一人の職員からゆっくり話（その人の現場で感じる事や、やりたいこと、悩み等）をきける機会をつくっていききたい。
22	○向上心を持って働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている	勤務状況の把握をしており、努力している職員には、ねぎらいの言葉を掛けるなどをしている。又向上心を持ってもらえるように新しい情報を伝える努力をしている。	

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んで いきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援				
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応				
23	○初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	入居前に利用者との面接を行っている。その際に利用者の自宅へ行き、利用者から直接、普段どのような生活を送られているかを聞き、散歩コースと一緒に歩くなどで生活されてきた環境を確認している。またホームでの生活を送るにあたっての希望の聞き取りを行うと共にホームの説明を簡単にわかりやすく行っている。	○	面接は1～2回行っているが、初めは少し不安な表情が見られる為、入居時の不安を軽減する為、入居前にホーム見学、体験入居で半日過ごす、一泊するなどを行いたい。それを行いながら、利用者と一緒に生活していくにあたっての打ち合わせをして、入居の手順にしたい。
24	○初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	利用に至るまでに最低2～3回は面接を行い、現在の利用者と家族等らの生活を聴き取り、何にこまっているのかホームに何を求めているかを聴き取りしている。		
25	○初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	相談を受けた時点で何を必要としているのかを読み取り、利用に至るまでに必要であるサービスなどの情報は提供できるように努めている。見学にこられた方からの介護等に対する質問があれば答えられるようにしている。調べなければならぬ内容であれば、調べて後日連絡しお答えするなど誠意をもって対応している。		
26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気に徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	本人又家族と利用前に打ち合わせを行い、都合がつかずならば、本人家族等共にホームへの見学と体験をお願いするようにしている。サービス開始後も初めは家族等の都合を確認し、徐々に馴染めるように不穏になれば、帰れる環境にしておいてほしいとのお願いをしている。	○	23と同様で回数や時間を増やして馴染んでいくようにしたい。又家族等の協力を得ながら初めに限らず、自宅を残しておられる方は利用者の希望時に帰宅等の対応をとるようにしたい。
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援				
27	○利用者と共に過ごし支えあう関係 職員は、利用者を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、利用者から学んだり、支えあう関係を築いている	食事準備を利用者と一緒に行い、調理の仕方、包丁での切り方、味見をして、味付けを教えていただくなど出来る事をそれぞれの方と行い、食事をとりながら、美味しく出来ているかを話し喜びを分かち合いながら食事をしている。また掃除機やモップがけを任せたりスタッフを助けているという意識を持っていたけように配慮しており、実際に学ぶ事、支えていただいている場面が見られる。	○	余計な事をすると迷惑がかかると思い、自発的に行動を起こさず、指示を待っている場面が多々あるため、自発的に行動を起こす場面作りに取り組みたい。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んで いきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
28	○利用者を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に利用者を支えていく関係を築いている	時間の都合がついた時には食事の介助に来ていただいたり、散歩や、外出に同行していただき介助していただく、又不穏なときは電話をかけて家族と話をして、落ち着いていただくなどをしている。	○	ホームを利用者の家という感覚を強く持っていただき、特に居室の掃除など利用者と一緒に取り組んでいただけるように働きかけたい。家事を家族等とともにすることで、利用者の家という感覚を強めていただくとともに、家族等も過ごしやすい環境づくりをしたい。
29	○利用者と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの利用者と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	理解に努め、安定した関係を継続できている。	○	定期的に利用者から、家族一人一人とどのような関係でありたいかの聴き取りとともに、家族等からも聴き取りを行い、双方の思いのバランスが取れているかを検討していきたい。
30	○馴染みの人や場との関係継続の支援 利用者がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	友人の面会が時折ある。又居室の個人電話で友人と出かける約束をし外出されるなどの支援をしている。又、馴染みの場所を訪れるなど大事にしていると共に新しい環境の中で馴染みの人、場所を作る支援をしている。	○	理容や買物などホームを基準に行動する為、新しい馴染みの関係が出来てきているが、今まで行きつけにしてきた喫茶店や市場などを訪れる機会を増やす。又ホームに入所した事で、友人と連絡関係が多少減っていると思われる為、再度家族等から、友人関係の聴き取りをして、より馴染みの関係の人との交流を深められるようにしたい。
31	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	生活状況から関係、相性などを把握して時と場所にあったペアなどを組み行動している。又利用者が利用者を手伝う・助ける場面をつくり、お互いに助け合いながら関係を築けるように支援している。	○	利用者同士で「こんな事をしたい」、という事を話し合い利用者間で企画、実行する機会をつくりたい自主性と協調性を高めれる取り組みをしたい。
32	○関係を断ち切らない取り組み サービス利用（契約）が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	契約終了後も契約時とできるだけ変わらず、時折様子の確認や、連絡相談にのれる体制でいる。	○	亡くなられることにより契約が終了したときは、利用者が生活をされていた、ここに存在をしていたという記念碑的なモノメントを作り、スタッフ・家族等と共に、年に一度でも利用者の思い出を語り合える機会を作って利用者を忘れない心、家族とのつながりを継続していきたい。

項	目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んで いきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
1. 一人ひとりの把握				
33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	暮らし方の希望・意向にそえるように利用者・家族等と相談しながら生活していくようにしている。共同生活をしていると、自由と自由・平等と自由が衝突する困難な場面が現れる為、その時は、できるだけ両者・お互いが納得のいく道を探すようにしている。	○	利用者の思い・希望を実現する為、利用者と家族等と担当現場スタッフ・計画作成担当者・管理者で定期的な話し合いをしたい。
34	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	聴き取りを利用者と家族等から行ないサービスに反映できるように努めている。	○	聴き取りはその都度行なっているが、友人や、デイサービス・ショートステイ利用時などの聴き取りを強化したい。家族等からの印象と友人や他のサービス利用時などの印象は必ずしも同じとは限らず、使い分けをしておられる方が多いと思われる為。
35	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	毎日の過ごし方、心身の状態の把握に努めており、不穏な状態の時等は、なぜそのような状態なのかを探る為、面会の間隔や、その利用者の背景を考えるように努めている。又徐々にできることが減っていくことが起こるが、現状で、できることを大切にに取り組んでいる。	○	有する力等の現状把握で、出来なくなってしまったと判断する前に、継続する為の工夫についてより時間を費やして、判断するようにしていきたい。
2. より良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し				
36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 利用者がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	面会時などに家族等にサービスの相談をしている。ただその時の申し送りサービスの内容変更しているものに対する介護計画書の変更が遅れていることが多い。	○	家族等から、利用者に対して現在よりどのような支えができるのか、介護計画に家族等のアイデアをもっと取り入れていきたい
37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じた見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、利用者、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	利用者・家族等と協議しサービス内容を変更するときがあるが、介護計画書としては、そのサービス実施後に作成している時がある。	○	サービス内容の変更前に介護計画書を作り、家族等の確認を貰いスタッフ間で確認したうえで実施にあたるようにしていきたい。

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んで いきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
38 ○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	介護記録に日々の生活の様子を記録している。又ケアチェック表により計画通りにサービスが行なえているのかを確認しながら介護計画の見直しに役立っている。	○	個別記録・全体の記録・連絡帳と記録紙が多く、内容の重複が見られておりまた記録にかなりの時間・労力が必要なので、簡素化したい。
3. 多機能性を活かした柔軟な支援			
39 ○事業所の多機能性を活かした支援 利用者や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	面会で必要であればホームに宿泊できるように対応したり、利用者の身内が入院していれば、家族との連携でタクシーを利用しての見舞いの支援や、外出先までの送迎・車椅子の貸し出しなどその時々々に応じて柔軟に対応できるように支援している。		
4. より良く暮らし続けるための地域資源との協働			
40 ○地域資源との協働 利用者や家族等の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	月一回のふれあい喫茶や傾聴・メイク・音楽・アロマトリートメント等ボランティアの協力を活用し質の向上に取り組んでいる。小学生の社会体験授業に協力し、ホームへ招くなどをしている。又地域の子守会に参加させていただき、小学生の安全確保に協力をさせていただいている。	○	警察との連携を深めて、行方不明の事故などの対策を強化したい。又定期的に救急法について地域の方々・家族等・利用者と学びたい。
41 ○他のサービスの活用支援 利用者や家族等の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	デイサービスセンターうみのほし魚崎へよく遊びに行っている。		
42 ○地域包括支援センターとの協働 利用者や家族等の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	権利擁護について利用者・家族等の意向を確認した上で相談をしている。連絡・相談を密に取り合っており、共に地域に貢献できればと協働している。		

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んで いきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
43 ○かかりつけ医の受診支援 利用者や家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	近隣の開業医による往診があり、状態変化による相談が気軽にでき、またすぐに対応していただける環境である。		
44 ○認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している	認知症について相談できる精神科医を確保している。	○	
45 ○看護職との協働 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている	10月より常勤で看護師を配置できており、日常の健康管理をし、医師との連携もとれている。		
46 ○早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している	協力病院との情報交換が密に取れており、早期の退院ができる様に取り組んでいる、また退院時に注意事項などの連絡、相談も出来る環境にある。		
47 ○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から利用者や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	早い段階で重度化・終末期について利用者・家族等に話し合いを持つ機会を作っていただけるように説明を行い、どのようなかたちを望まれているのかの意思確認を行なっている。ほぼ全員から意志の確認ができています。	○	かかりつけ医と連絡相談は繰り返し行なっているが、全員で方針の共有にまでは至っておらず、重度化に向けてよりかかりつけ医と方針についての調整が必要
48 ○重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている	「できること・できないこと」の基準は判断できており、かかりつけ医にも協力の要請ができています。ただし、その時の家族等の協力・事業所の状態などで、一律な取り決めはしていない。一律な取り決めはせず、家族等の協力・事業所の状態など、一つ一つの状況に合わせて臨機応変に相談を繰り返しながら対応できる状態にある。	○	

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んで いきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
49 ○住み替え時の協働によるダメージの防止 利用者が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている	移り住むという事があれば、できるだけ移られる場所を見て、グループホーム・自宅の環境とくらべてその地との違いや留意点などの情報交換ができるようにしている。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援 1. その人らしい暮らしの支援 (1)一人ひとりの尊重			
50 ○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	自尊心を大切にできるように、対応に気をつけている。言葉かけは、親しみから、適切でなくなる傾向があるため、定期的な見直し、またこのような表現は特に注意しましょうという、目標を作っている。	○	共同生活の中で個人のプライバシーについて本人が判断できない状態にあるときは、家族等がその判断にあたるのだが、その時に本人の思っているだろう気持ちをより大切にして家族等に説明し判断をしていきたい。
51 ○利用者の希望の表出や自己決定の支援 利用者が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている	利用者の思いや希望を尊重して働きかけている。利用者による判断が困難な時は、スタッフから、家族等に状況の説明を行い、その状況や行動から、読み取れる事を説明した上で、判断をお願いしている。		
52 ○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	決まりごとの中に利用者の思いを最優先に考えるという事を定期的に会議などで話し合いをしている。	○	もっと利用者の希望を聴き、ペースにあわせて行動する為の努力をしたい。また、対応では家族等やボランティアなどの協力をより強化する。
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援			
53 ○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている	希望があれば理容・美容ともに利用者の望む所を利用できるようにしている。また服装や化粧、おしゃれ心を大切に考え取り組んでいる。	○	入居前はもっとおしゃれに気をつけておられたのではないと思われる方がいるため。おしゃれをする楽しみなどの感覚をとりもどせるように、街に出かけるなどの取り組みをしていきたい。又普段着と外出用の服等を使い分け、身だしなみにメリハリをつけていきたい。

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んで いきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
54 ○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	食卓には生花を飾り、食卓を美しく楽しい雰囲気になるように働きかけている。毎食一緒に食事準備・調理・後片付けをしており、楽しくなるように話をしながら行なっている。	○	好みのものや嗜好調査をしながら献立を業者が決め、最低週に一回は利用者とメニューを決めている。話合いの中でもっと利用者が主体的に意見を述べ段取りができるように支援をしていきたい。
55 ○利用者の嗜好の支援 利用者が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している	医師、家族等に相談の上で楽しめるように支援をしている。		
56 ○気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	できるだけ、オムツの使用頻度を減らす働きをしており、排泄パターンの把握に努めている、実際に入居時に紙パンツを使用していた方が布パンツで日中生活できるようになっている。また、失敗した時の不快感や自分で何とか処理をしないとイケないと思う気持ちを大事に、羞恥心を傷つけないように支援に取り組んでいる。		
57 ○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入浴は希望があればいつでも対応できるようにしている。入浴拒否が見られる方には無理強いすることはなく、何故入りたくないのかを検討している。また気持ちを乗せる事ができるような言葉掛けなどに気をつけて取り組んでいる。		
58 ○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	安眠の為の上手な薬の使用も検討の中に含め、安眠を促している。夜間、心配事を思い出したり、淋しさから寝付けない方にはゆっくり話を聴き安心して休む事ができるように働きかけている。		
(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援			
59 ○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	犬が好きな方には、ホームで飼っている犬の世話、散歩。土いじりを得意とする方には花壇の世話など特技を活かして好きなことに取り組む事ができるようにしている。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んで いきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
60	○お金の所持や使うことの支援 職員は、利用者がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	自分で管理のできる方、失くす可能性はあるが希望され管理したい方には家族等と相談し少しのお小遣いを持って管理してもらうなど自分でお金を持つ・支払うなどを大切に考えて支援を行なっている。	○	利用者さんにお金を渡し食事で自分の食べたい物を買ってそれを食事にするなどの企画を実行していきたい。
61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	外に出る機会を多く設ける事ができるようにしている。室内でゆっくり過ごされる時間を大切にしながらも、引きこもりにはならないように外に興味を持ち外出・リビング・共用部でも過ごせるように促している。	○	利用者が外出したいと思ったときに待っていただくことがあり、その待つという行為を減らす事ができるようにしたい。思ったときに思ったことを行動に移せる環境づくりにより力を入れたい。
62	○普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	行ってみたいという希望を大切にしており、家族協力をしていただくなどをして、ふるさとに帰るなどをしている。誕生日は本人が主役で、本人の思い、願いを全て聴きいれるという取り組みを他の利用者にも協力していただきおこなっている。		
63	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に利用者自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	FAXを使用のやり取り、家族に利用者が声を聞きたくなったら電話させていただく事、また掛けてきていただけるようお願いをしている。よく電話連絡をしている。また手紙も書くことがある。		
64	○家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、利用者の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	笑顔で挨拶、お茶を出させていただく、一緒に話を楽しむ居室に椅子が無ければすぐに用意するなど気を使われないように配慮をしている。	○	居室で面会者が利用者と一緒にゆっくり過ごしやすいように利用者が生活しやすいのと共に面会者も過ごしやすい居室作りにもっと工夫をしていきたい。
(4)安心と安全を支える支援				
65	○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	出入り口に鍵をしない、行動の一つ一つの意味を深く考える努力を惜しまず、検討相談し、身体拘束は行なわないホームとして取り組んでいる。また研修も行なっている。		

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んで いきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
66 ○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	リスクを考えると共に鍵をする事による弊害を理解しており実施している。	○	鍵をしないことで一時的な行方不明などがおこるため、地域の方々・警察との連携を強めていきたい。
67 ○利用者の安全確認 利用者のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	いつも観察をしており、今どこで何をしているなどはいつも把握できている状態である		
68 ○注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	注意が必要なものも出来るだけ継続して使用ができるようにするための話し合いを持つようにしている。		
69 ○事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	一人一人危険度が違って来る為、その人にあつた対応を考え相談し、対応している。		
70 ○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	研修を行なっている。	○	救急法は行なったが時間に連れ忘れてしまう為年に1回は定例で継続して救急法の訓練はしていきたい。
71 ○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日頃より地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	定期的に避難訓練と地域の避難訓練にも参加をしている。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んで いきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
72	○リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にした対応策を話し合っている	リスクを説明し、どうすれば良いかという対策は家族等と話し合いその都度決定し、又経過の報告をするようにしている。		
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援				
73	○体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気づいた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	体調面のことは看護師、かかりつけ医に報告をするようにしており、記録で情報共有している。		
74	○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	看護師の管理の下説明を受け、理解し服薬の支援を行っている。	○	看護師を頼りにしながらも、介護スタッフがより自立し、基本的な判断は出来るようになりたい。
75	○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	毎朝体操をしている。上手に薬を使用するようにしており、水分補給に気を付けており、食生活などで解決できる面はそちらを優先している。		
76	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れやにおいが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	毎食後口腔ケアを実施している。できるだけ自力でできる部分はしていただいている。また誤嚥防止のために食前の口腔ケア・誤嚥体操にも取り組んでいる。		
77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	水分量をチェックしている、お茶の時間、散歩の後や、入浴後など水分補給につとめている。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んで いきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
78	○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している（インフルエンザ、疥癬、肺炎、MRSA、ノロウイルス等）	感染症対応マニュアルを基に対応している。		
79	○食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	毎日冷蔵庫の温度チェックをつけている。賞味期限のチェックや保存方法の徹底。食器、テーブルなどの消毒を行なっている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり				
(1)居心地のよい環境づくり				
80	○安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	建物内にはたくさんの花やその季節に応じた飾り物や利用者と一緒に作った作品の展示などをしている。		
81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節感のある飾り物をするなど配慮をしている。		
82	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共用部分にはたくさんの椅子を置いておりどこでも座ってお話ができるように配慮をしている。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んで いきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、利用者や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもをを活かして、居心地よく過ごせるような工夫をしている	馴染みのものを自宅から持ってきていただいたり、生活しやすいように居室の環境づくりをしている。	○	もっと居室環境については、利用者・家族等と相談し、より良いお部屋作りをしていきたい。
	84 ○換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のよどみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	匂いに気を払いアロマを取り入れるなどの取り組みをしている。温度調整は基準を設けて取り組んでいる、また掃除の時や定期的に換気を行なっている。		
(2)本人の力の発揮と安全を支える環境づくり				
85	○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	必要な部分に手すりの設置や、オーバーテーブルを使っての下膳など利用者が自立してできることをいつも考え、取り組んでいる。		
86	○わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	わかる力、できる力を信じて、多少の失敗は恐れなくてもチャレンジできる環境づくりに取り組んでいる。	○	現在も取り組んで入るが、より自立して、利用者自身から、間違いを恐れずに意見を述べれる機会作りをしたい。(利用者が仕切る簡単な会議など)
87	○建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている	花壇や鉢植えを置いており、花の世話をしておられる、又物干しに洗濯物を干すなどができるようになっている。		

( 部分は第三者評価との共通評価項目です)

Ⅴ. サービスの成果に関する項目		
項 目		取 り 組 み の 成 果 (該当する箇所の番号の前に○印をつけてください)
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	○ ①ほぼ全ての利用者の ②利用者の2/3くらいの ③利用者の1/3くらいの ④ほとんど掴んでいない 常に生活を共にして、利用者様の傍にいて意向を掴んでいる。また掴めるように努力をしている。
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○ ①毎日ある ②数日に1回程度ある ③たまにある ④ほとんどない グループホームにこれが無いとなると、根本が揺らぎます。体操の時や家事、食事など生活全般において、ゆったりとした時を過ごせるようにしている。
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○ ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない どうしてもスタッフの考えている時間配分に利用者を当てはめる事が多い。
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	○ ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない 時々によって違う。活躍する場面を提供する支援では、多々見られている。
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	○ ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない 即時対応で困難な場面はあるが、大体の所には行けている。
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	○ ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない 近隣の医師との協力関係が築けており、また看護師を配置する事が出来た為、不安なく過ごせていると思われる。
94	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	○ ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない 臨機応変に対応する事が難しく、多少管理的になりがちであり改善していきたいと取り組んでいる。
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	○ ①ほぼ全ての家族と ②家族の2/3くらいと ③家族の1/3くらいと ④ほとんどできていない 協力的なご家族様が多く、ご家族様のほうから親しく接してきていただけており、信頼を築いている。
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	○ ①ほぼ毎日のように ②数日に1回程度 ③たまに ④ほとんどない 毎日訪ねてこられる方もいれば、月1回など様々である。

項 目		取 り 組 み の 成 果 (該当する箇所の番号の前に○印をつけてください)	
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	○ ①大いに増えている ②少しずつ増えている ③あまり増えていない ④全くいない	前向きな取り組みが増え、親しくなっている。ホームを利用して地域の人たちが会議を開いたり友好的である。
98	職員は、生き活きと働けている	○ ①ほぼ全ての職員が ②職員の2/3くらいが ③職員の1/3くらいが ④ほとんどいない	休憩が取りずらく、何を指すか目標設定があいまいで達成感がなく疲れている。管理者として責任を感じている。
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない	認知症の方々はご自分で気持ちを言語化しにくい「感じ」で判断、ただし最近スタッフが利用者に対して指示的になる事があり、改善が必要。
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ ①ほぼ全ての家族等が ②家族等の2/3くらいが ③家族等の1/3くらいが ④ほとんどできていない	家族会などでの発言を聞いていると「おおいに満足」という発言がほとんどである。

【特に力を入れている点・アピールしたい点】 (この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。) 地域の一資源としての存在でありたいと常々思っている。したがって地域にいきなり溶けこむか心配している。また利用者様、スタッフが心から楽しめる場所であり続けたいと思っている。
--